秘

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　京城地方法院檢事正

法務局長　　印　　　　　　　　　　　　法務課長

高等法院檢事長　　印　　　　　　　　　檢事　　印　印

京城覆審法院檢事長　　　　　　　　　　檢事　　印

供閲文書目録

受理月日　　十一月七日

文書の標目　同友會事件保釋出所者ノ思想轉向會議開催に關スル件[[1]](#footnote-1)

報告官署　　京畿道警察部

京高特秘第二四九四號

昭和十三年十一月五日

　　　　　　　　　　　　　　　　京畿道警察部長

警務局長　殿

京城地方法院檢事正　殿

各道警察部長　殿

京城憲兵隊長　殿

　管下各警察署長　殿

同友會事件保釋出所者ノ思想轉向會議開催ニ關スル件

対十一月三日付電話報告（局ノミ）

睘ニ保釋トナリ出所シ目下京城府孝子町一七五ノ妻許英粛方ニ於テ病気静養中ナル興士団及同友會事件ノ重要幹部李光洙並朱耀翰ノ両名ハ、現下時局ノ重大性ニ鑑ミ過去ヲ清算セシメタル吾々ハ、此ノ際仝事件保釋出所者一同ニ呼掛ケ積極的ニ皇國臣民タルノ赤誠ヲ披瀝セサルベカラズト爲シ、頃日來寄々協議中ノ處、之ガ具体的實行方法ノ成案ヲ得タルヲ以テ、京城地方法院長ノ承認ヲ受ケ、去ル弐六日付別寫ノ如キ案内狀ヲ関係者全部ニ郵送シ[、]豫定ノ通十一月三日明治節ノ佳節ヲ卜シ、前記李光洙方ニ於テ関係者二十八名集合（欠席五名、未決在監八名）ノ下ニ思想轉向會議ヲ開催セルガ、其ノ状況左記ノ通ニシテ、惟フニ渠等ハ這般管下西大門警察署ニ於テ検挙送局シ起訴猶豫トナリタル興業倶楽部事件関係者一同ガ皇國臣民ノ本然ニ還リ相□テ銃後報國ニ邁進シツゝアルコトニ大ナル（以下約一〇字判読不能）刑上ノ恩典ニ浴スヘク、豫備的宣伝行為トシテ□□ニ出デタルニ非ズヤト認メラルゝニ付、引続キ動向厳重注意中ナリ

右、報告通報（達）ス

追テ地方ヨリノ出席者ハ該會議終了後、三々五々住所地ニ向ケ退城セルニ付、要視、要注ノ異動報告（通報）ハ本報ヲ以テ省略ス

集合日時　　十一月三日　自午前九時至午後零時十分

仝　場所　　京城府孝子町一七五　李光洙妻　許英粛方

主催者　　　同友會事件保釋被告一同

司會者　　　李光洙

集会ノ目的　時局ニ對スル思想轉向會議

主ナル集会者　朱耀翰、金性業、金東元、張利郁、李允宰

集会人員種別　男二十八名

□監警察官　　　京畿道警部補　　斎賀七郎

　　　　　　　　仝　巡査　　　　金義洙

　　　　　　　　仝　　　　　　　李應鉉

(一)　開催ノ狀況

　一、開會

　　　午前九時李光洙司會ノ下開會ヲ宣ス

　二、皇居遥拝

　　　午前九時ヲ期シ一同起立皇居遥拝ヲ為ス

　三、國歌奏楽

　　　一同起立レコードヲ以テ國歌ヲ奏楽ス

　四、黙祷

李光洙ヨリ、皇軍戰没將兵及負傷白衣勇士ノ慰霊並早急平癒ヲ祈願スル意味ニ於テ黙祷ヲ捧ゲラレタシト述ベ、一同起立１分間黙祷ヲ爲ス

　五、経過報告

李光洙ヨリ別紙添付ノ申合事項（轉向表明書）ヲ各自ニ配布シ、自分等ハ過去ヲ清算スルト共ニ今後日本臣民トシテ生クベク決意セシモ、之ガ思想感情ヲ取纏ムル機會ナク、唯法ノ裁ヲ俟チツゝアル不自由ナル保釋者トシテ、該忠良ナル思想感情ノ発表ノ機速カニ到来センコトノミヲ希望シ居レルガ、先般廣東漢口陥落シ、又靖国神社ニ於テハ多数ノ皇軍戰死者ノ盛大ナル慰霊祭ヲ舉行セラルゝアリ。痛ク國民意識ニ燃ヘ、自己ハ個人ノ資格ニ於テ裁判長宛通信ヲ以テ、我等被告ニモ國家ニ對スル感情並思想ヲ取纏メ奉仕ノ機ヲ與ヘラレタキ旨進言シタル処、裁判長ノ御諒解アリ。且、保釋者全員會合自由討議ヲ爲スモ可ナル旨御指示アリタルヲ以テ、朱耀翰ト協議シ、我等保釋者並在檻者何レモ現時局ニ對シ同様意思ニシテ、自己二人ノ意思ハ皆ノ總意ナルヲ見越シ、僭越乍ラ諸氏ノ同意ヲ得ルコトナク申合事項ヲ決定シ、御参集ヲ煩ハシタル次第ナリ云々

六、神社参拝

朱耀翰ヨリ、先ヅ我等ノ行動トシテ神社ニ参拜後申合事項ヲ討議シテハ如何ト提議シタル処、一同賛成シ、賽銭金百円ヲ持参シ、午前十時より仝十一時迠ノ間、一同自動車ニ分乗、朝鮮神宮ニ参拜ス

　七、申合事項

李光洙ヨリ申合事項ニ関シ、出席者全員捺印ヲ為シ、太宰辨護士ヲ通シテ裁判長ノ許可ヲ得、在檻者ニモ同意捺印ヲ得、尚地方欠席者ニハ通信連絡ニヨリ捺印ヲ得タル上、裁判長宛提出サレタシト提議、一同之ニ賛成シ出席者二十八名捺印ヲ了ス

　八、國防献金

李光洙ヨリ、同友會ノ入會金三百円位ヲ國防献金ニスル外、本席ニ出席セルモノ全員夫々應分ノ國防献金ノ申込ヲ為シ、来ル十一月末日頃迠朱耀翰宛現金送達セラレ度、尚在檻者並地方欠席者ニモ裁判長ノ許可ヲ得、献金申込ヲ受理スルコトニ致度旨提議シ、一同之ニ賛成シ申込募集ノ結果別紙醵金表ノ通、二千八百八十八円ニ達ス

金炳淵ヨリ、平壌ニ於ケル同盟貯金約一千円位アリ、之ヲモ國防献金トシテ献納サレ度旨提案シタルニ、趙明[[2]](#footnote-2)ヨリ該貯金ハ出資者ノ各口金利ニシテ且少数乍ラ會員以外ノモノヲモ参加シアリ。之ヲ献金スルニハ出資者ニ一應全額ヲ返還シ、出資者ヨリ直接献金スルノ形式ヲ採リ、尚非會員ニモ（極少数）何レモ献金ヲ勧誘實施セシムル方、妥当ナリト思料セラルト述ベ、一同之ニ賛成可決シ該處理委員トシテ金炳渕、趙明植ノ両名ヲ推選ス

九、萬歳三唱

午后零時十分李光洙先唱ニテ一同起立シ天皇陛下ノ萬歳ヲ三唱ス

一〇、閉會

午后零時十分閉會ス

（二）出席者

京城　　李光洙　金鍾悳　朴賢煥　金允経　朱耀翰　趙炳玉　呉鳳彬　李允宰

　申鉉模　　韓昇寅

平壌　　劉基峻　金東元　趙鍾完　金燦鍾　崔能鎭　石鳳錬　崔允鎬　趙明

　金炳渕　金性業　許龍成

釜山　　宋昌根

宣川　　白永華　朱賢則　張利郁　呉翊殷

安岳　　金庸壯　金善亮

　　　　　　　申合

　吾等ハ、併合以來ノ日本帝國ノ朝鮮統治ヲ、英國ノ印度ニ對スルガ如キ、佛國ノ安南ニ對スルガ如キ、單ナル所謂植民政策ト解シテ來タ。ソシテ朝鮮民族ハ一殖民地ノ土人トシテ永遠の奴隷たるの運命ニ置カレタモノト嘆イテキタ。明治大帝ノ一視同仁ノ御言葉ハ實際ニ於テハ永久ニ實現サレナイモノト思ツタノデアル。是ニ於テ吾等ハ獨立思想ヲ抱キ、朝鮮民族ヲ日本帝國ノ羈絆ヨリ解放スルコトガ吾等ノ義務ト信ジテ來タノデアル。

　併シ吾等ハ過去一年有半、深キ反省ノ結果、朝鮮民族ノ運命ニ對スル再認識、從來吾等ガ抱懐セル思想ニ對スル再検討ニヨリテ、日本帝國ノ朝鮮統治ノ眞意ニ對スル正シキ理解ニ達スルコトガ出來タ。吾等ヲコノ喜バシキ結論ニ導イタ最モ有力ナル要因ヲナスモノハ、支那事變ニヨリテ明ラカニサレタ日本ノ國家的理想ト、南総督ノ幾ツカノ施政ヤ意思表示トデアル。

　吾等ハ支那事變ニ於テ、日本帝國ノ國家的理想ガ西洋ノ帝國主義國家群ノソレトハ甚ダ懸隔ノアルコトヲ認メタ。日本[ノ]八紘一宇ノ理想ヲ強ク認識シテ、先ズハアジア諸民族ヲシテ歐米帝國主義ト共産主義トノ桎梏ヨリ脱セシメ、東洋本來ノ精神文化ノ上ニ共存共榮ノ新世界ヲ建設スルコトガ日本帝國ノ國家的理想ニシテ目的デアルコトヲ、吾等ハ理解スルト同時ニ、朝鮮民族モ、決シテ從屬者ニモ、追隨者ニモアラズシテ、共ニ日本國民ノ重要ナル構成分子トシテ、此ノ偉業ヲ分担シ、又ソレヨリ來ル幸福ト榮譽ヲ享受スル者デアルコトヲ、國家ヨリ許サレ且要求サレタモノト、吾等ハ理解スルコトガ出來タノデアル。已ニ教育ノ平等ハ實現サレタ。近キ将來ニ於イテ、義務教育モ實施サレ、兵役ノ義務ヲ朝鮮民族ニ及ボスコトモ暗示サレテ居ル。一言以テ之ヲ蔽ヘバ、日本帝國ハ朝鮮民族ヲバ、植民地ノ被統治者トシテデハナク、眞ニ帝國ノ臣民トシテ之ヲ受ケ入レ、ソシテ之ニ信頼セントスル眞意ノアルコトヲ吾等ハ理解シ、且ツ信ズルコトガデキタノデアル。

　斯クテ、吾等ハ從來ノ吾等ノ誤解ニ基ケル、祖國ニ對シテ誠ニ申シ訳ナカツタ思想ト感情トヲ清算シテ、新シキ希望ト歓喜ト熱情トヲ以テ左ノ如ク決スル。

一、吾等ハ至誠以テ天皇ニ忠義ヲ致サウ。

二、吾等ハ日本國民タルノ信念ト衿持トヲ以テ帝國ノ理想實現ノ爲メ、精神的ニ並ニ物質的ニ全力ヲ盡サウ。

三、支那事變ハ我ガ日本帝國ノ國家的理想實現ノ基礎ニ関スルコトナルヲシカト把握シ、

　　作戦及ビ長期建設ノ爲メノアラユル國策ノ遂行ニ最善ノ努力ヲナサウ。

　ココニ明治ノ佳節ヲトシ、吾等下記[ノ]者ハ熟慮ノ上、申合ハワセヲナスモノデアル。

昭和十三年十一月三日

元同友會々員一同

國防獻金申込表

李光洙　二百圓　　　金□眞　參拾圓　　　朴賢煥　五圓　　　　金允經　拾圓

朱耀翰　五百圓　　　趙炳玉　二百圓　　　劉基峻　五拾圓　　　呉鳳彬　二拾圓

金善亮　五百圓　　　金東元　三百圓　　　白應賢　缺席　　　　趙鍾完　參拾圓

金恒福　缺席　　　　金燦鍾　拾圓　　　　呉敬淑　　缺席　　　　　　金庸壯　五百圓

李允宰　三圓　　　　金鳳性　缺席　　　　宋昌根　五圓　　　　韓承坤　缺席

崔能　二百圓　　　石鳳錬　二拾圓　　　白永華　未定　　　　崔允鎬　五拾圓

許龍成　五圓　　　　韓昇寅　五拾圓　　　申鉉模　五拾圓　　　 朱賢則　二拾圓

張利郁 二拾圓　　　趙明　二拾圓　　　金炳　二拾圓　　　金性業　拾圓

呉翊殷　五拾圓

寫

前略

今般裁判長閣下ノ御諒解ヲ得マシタノデ、私達同友會事件保釋被告一同集ツテ會合ノ上、私達ノ取ルベキ今後ノ態度ニ付協議致シ度イト思ヒマスカラ、来ル十一月三日（明治節）午前九時定刻ニ京城府孝子町一七五番地（進明学校前）李光洙宅ヘ萬障御繰合ハセ御出席ヲ願ヒマス

昭和十三年十月二十六日

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　李光洙

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　朱耀翰

1. 「自昭和十二年六月九日 至昭和十三年十一月十日 同友會関係報告 京地、検、思想係」（国会図書館マイクロフィルム）。ここには1937年6月の会員逮捕から1938年11月の李光洙らの轉向声明まで、事件に関する資料がまとめられているほか、事件と安昌浩の死に対する各界の感想、不起訴になった会員と仮保釈された会員の動向、不起訴になった会員が提出した手紙や轉向声明なども収められている。本文には濁点と句読点がないが、解読の便宜のために入れた。 [↑](#footnote-ref-1)
2. 書類によって趙明植、あるいは趙明埴 [↑](#footnote-ref-2)